

願いよ届け

# 六郷のカマクラ

15日までの5日間にわたって行われます。

この行事は、11日の蔵開き・天筆書初めから15日の竹うち・天筆焼きまでの一連の催しを指し、昭和57年には国の重要無形民俗文化財に指定されました。各地の小正月行事が失われつつある中において、今なお本来の姿を保ち、住民の伝承意識が高いことから貴重なものとされています。

秋田県では、雪で作ったドーム型の雪室そのものを指して「かまくら」と呼ぶことが多いですが、「六郷のカマクラ」は一連

家菅江真澄は文政11年（1828年）に六郷地区の小正月行事を見て、その当時の様子

を著書『月の出羽路』に絵と文を残しました。菅江真澄の絵には、天筆を持った老若男女が「松二オ」を取り囲んで集まった様子が描かれ、「釜蔵といえり」と記されています。このことから、以前は吉書焼き（ドンド焼き）のことを「かまくら」と呼んでいたことが分かります。竹うちの2回戦と3回戦の間に天筆を焼きますが、この天筆焼きそのものが「かまくら」でした。

小正月行事が観光化した現在では「六郷のカマクラ」と言えば竹うちを連想する場面も多いですが、竹うちは「かまくら（天筆焼き）」に集まった人々の間で自然発生的に始まったものと考えられています。菅江真澄が残した絵にも、天筆焼きの様子は描かれていますが、竹うちに関するものはありません。また、今のように開始時間やルールが決まっていなかったため、片軍が竹うち会場に到着したのに、もう一方がいつまでたっても現れないということもあ

ったそうです。

## 『天筆』今昔ばなし

天筆は、2月11日の『蔵開き』の日

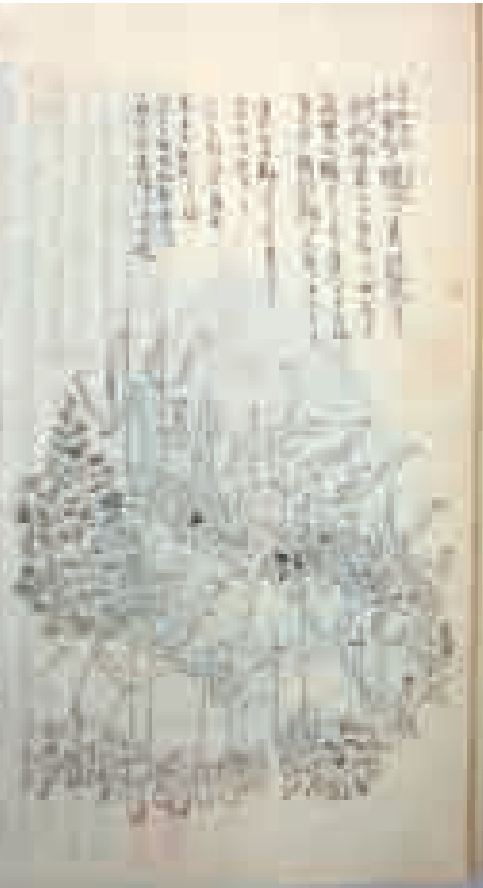
に作るのが古くからの伝統です。『蔵開き』は、現在の暦では2月11日ですが、旧暦では正月11日、つまり新しい年になってから11日目にあたりました。この日は、元日から正月11日まで閉じていた蔵を開き、商家が新しい大福帳を作って一年の繁盛を祈るとい

う、節目の日だったのです。

天筆には願い事を書き、青竹に付けて屋外に掲げます。現在は、緑、黄、赤、白、青（紫）の順に色紙（天筆紙）をつなぎ合わせて作りますが、昔は半紙を横に三つに切って貼り合わせた白紙のものもありました。また、以前は、その家庭の男児の人数分の天筆のみを準備し、女兒の分は作らないならわしだったそうです。

また「奉納」だけでなく、現在は『奉納鎌倉大明神』と書かれることが多いですが、『奉納歳徳大明神』と書くこともあり

ました。『奉納鎌倉大明神』に続いて、必ず『天筆和合楽地福田満楽』と書き、最後には『あらたまの年のはじめに筆とりてよろずの宝かくぞ集むる』という和歌を一首書きます。寺子屋があった時代には、習字の手本に「天筆手本」というものがあった、それを習わせたこともあったそうです。現在は、小学校、中学校の授業で天筆を書き、地域の伝統文化の継承に努めています。



小正月行事「六郷のカマクラ」必需品の天筆などを「名水市場湧太郎」内の美郷町観光情報センターで販売しています。

- 紙天筆 ..... 80円
- ミニ天筆(布製) ..... 350円
- 天筆(布製) ..... 1400円
- カマクラ用五色のぼり(布製) ..... 800円  
購入枚数が多い場合は、値引きします。
- カマクラ用五色のぼり(ポール付き) ..... 1450円  
購入枚数が多い場合は、値引きします。
- 夢お札・ミニ天筆セット ..... 500円  
願いごとを書いたお札をミニ天筆に結び、米俵に差して納め、15日に天筆焼きをします。

問◎美郷町観光協会 ☎0187(84)0110

## 六郷のカマクラ

### 天筆まつり

天筆は、11日から15日までの間、各戸や町内施設などに掲揚されます。

期間●2月11日(土)～15日(水)

場所●六郷地区の全戸と各町内で掲揚

### 鳥追い小屋・雪宮

六郷地区の町内がそれぞれに趣向を凝らして作る鳥追い小屋と雪宮はカマクラ行事の楽しみのひとつ。カマクラ期間中は町中で鳥追い小屋と雪宮を見ることができます。

美郷町観光協会では鳥追い小屋と雪宮の出来映えを審査するコンクールを実施します。

コンクール審査日時●2月14日(火) 午前9時30分～

### 竹うち

六郷地区の町内が南軍と北軍に分かれ、5～6mの青竹で打ち合います。南軍が勝つと米の値が上がり、北軍が勝つと豊作になると言い伝えられています。

日時●2月15日(水) 午後8時～

場所●秋田諏訪宮カマクラ畑

### 「竹うち」への参加方法が変わっています

参加者は、南軍か北軍のいずれかの町内会に必ず所属してください。上記の町内会以外の地区の方も参加できます。

各町内会の竹奉行が参加者を取りまとめます。受け付けが終わると、町内会ごとにヘルメット用打ち手識別シールとカマクラ畑入場許可証が配布されます。

ヘルメットに打ち手識別シールを貼り、カマクラ畑入場許可証を携帯して「竹うち」に参加します。

問◎美郷町カマクラ保存会(美郷町学友館内)

☎0187(84)4040

## 「名水市場湧太郎」イベント

### 天筆書き体験

願いごとを天筆に託してみませんか。どなたでも参加できますので、お気軽にご来場ください。

期間●2月15日(水) 午前11時～午後4時

### 餅つき・甘酒

つきたての「きなこ餅」や甘酒を振る舞います。

日時●2月15日(水) 午後3時～



真澄遊覧記 月の出羽路 六郷高野神社(下十六)  
(栗林治郎作写本)美郷町学友館所蔵。  
“松二才”を囲み、「かまくら」(吉書焼き)をする人々の様子が描かれている。

「六郷のカマクラ」は長い時間をかけて地元の人々の手によって受け継がれてきました。後世に伝わる過程で少しずつ簡素化され、時代の変化を受けて今では行われなくなった風習もあります。しかし、菅江真澄がその目で見た時代から現在まで、その姿を大きく損なうことなく伝えられたのは、地元の人々に愛され、多くの人が楽しみながら参加できた行事だったからでしょう。歴史ある「六郷のカマクラ」ですが、残念ながら現在は様々な行事・風習の担い手が減り、伝統行事継承の岐路に立たされています。身近でありながら全国的に貴重とされている地元の行事の価値を今一度見直したいものです。



昭和43年2月に初めて開催された全町天筆席書会の様子。小学生30名が参加して天筆を書き、入賞をめざして腕をふるった。